

抱樸館福岡共同墓地の建立式・納骨式が行なわれました 糟屋郡篠栗町

2018年12月3日(月)雨模様の少し肌寒い日でしたが、「抱樸館福岡共同墓地」の完成にともない、建立式と納骨式が行われました。その模様を報告します。



抱樸館福岡に入居された方のなかには、家族との関係を喪失し、社会的に孤立された方も少なくありません。したがって、抱樸館福岡から地域で暮らすようになった卒業生の皆さんにとって、「自分が入るお墓」ということはとても切実な問題でした。

○ 自分が居なくなった後のことが心配。無縁仏になるしかないのだろうか。

卒業生を中心としたボランティア活動の会である「えにしの会」のメンバーを中心にこうした声が聞かれるようになっていました。開設から10年を迎える抱樸館福岡を卒業された方々の中には、高齢になりこのような心配が身近なものになっている方も年々増えていく状況になっていました。

○ 抱樸館福岡のお墓を建立しました。

このような現状を受けて、「えにしの会」の世

話人会「つくしのつどい」において、お墓についての検討を始めました。

まずは「えにしの会」メンバー全員にアンケートを取り、その後、抱樸館を卒業された方全員に対してアンケートを実施しました。いずれも、回収数の半数にあたる方々から「自分のお墓が心配」と回答が寄せられました。

そのような結果を受けて、具体的な霊園候補地や費用について調査の上、糟屋郡篠栗町にある霊苑内に抱樸館福岡の共同墓地が建立されることとなりました。

墓碑には皆の想いを象徴する言葉である「絆」の一文字が刻まれています。

○ 建立式・納骨式が行なわれました

建立式・納骨式には「えにしの会」の世話人の皆さんをはじめ、抱樸館福岡に関係するたくさんの方に列席いただきました。

社会福祉法人グリーンコープ

の金羽専務から「抱樸館福岡共同墓地は、抱樸館福岡を利用された、身寄りのない方々の最後の安住の地として作られました。グリーンコープの取り組みは、子どもから高齢者までを越えて、『生まれる前から死んだあと』まで広がりを見せ始めています。今回の共同墓地の建立は、グリーンコープの取り組みの中でも象徴的なできごとです」と挨拶をいただきました。



最後に「えにしの会」会長の中村修三さんから「死んだあと兄弟に迷惑をかけたくはない。自分も仲間と一緒に、このお墓に入りたくと思っています」と挨拶があり、建立式はつつがなく終了しました。



これまで抱樸館福岡

の卒業生がお亡くなりになった際、引き取り手がなかったご遺骨は、北九州の東八幡キリスト教会に納骨をお願いしていました。今回、抱樸館福岡のお墓ができたことに伴い、教会に眠っていたご遺骨、そして抱樸館福岡にてお預かりしていたご遺骨、あわせて20口を抱樸館福岡の共同墓地に納骨しました。

建立式に続き、抱樸館福岡経営委員長で東八幡キリスト教会牧師の奥田知志牧師の司式のものと、納骨式が執り行われました。

一人ひとりのお名前と、ご逝去された日付が読み上げられます。その中には支援が届かず、お一人で最期の時を迎えることとなってしまう、逝去された日がはっきりと分からない方もいました。そして、20口の骨つぼが、列席者の見守る中、厳かにお墓に納められました。

続いて、奥田牧師から共同墓地の建立が持つ意味と、私たちの取り組みの持つ意味についてのお話がありました。

「葬儀や納骨、そしてお墓を作り故人を見守り続けるという役割は、従来、家族が担ってきました。しかし、無縁化する社会の中で、亡くなったあとも家族のもとに帰ることのできない方が増えています。北九州でも約半数の方が、家族ではなくNPO法人抱樸が葬儀や納骨を行っています。社会福祉法人グリーンコープ、NPO法人抱樸の取り組みは、これまで家族が担ってきた役割を社会が担うということ、家族機能を社会化するという事です。今日の一步には、単なるお墓の完成ということに留まらない意味があります。赤の他人が家族のように看取り、納骨するという、無縁化が進む社会の中でお墓ができたことの意味はとても大きいと言えます。一方で、そのようにして赤の他人が関わ

り続けることは、とてもしんどいことでもあり、私たちはやるだけやっただけとも言えるだろうかと問われることでもあります。人間ができることには限界があり、究極的には人が人を救うことはできません。

それでも、私たちは死んでも関係を切らない、赤の他人同士が本気で結ばれるということを決めたのです。

それこそが『絆』という碑文が象徴するものです。」

奥田牧師からの言葉に続き、全員で賛美歌を歌い、祈りを捧げました。

「私たちは、新たな絆、新たなつながりをつむいでいく。出会った責任を果たすため、赤の他人がそのためにたゆまぬ努力を行っていく。私たちの道のりを、どうか見守ってください」

列席した18名全員で墓前にお参りをし、式を終えました。

その後、卒業生に対して年に2回発行・送付している「きせつだより」にて今回の建立式、納骨式についてお知らせしたところ、大きな反響がありました。

「抱樸館福岡の共同墓地は、抱樸館福岡を利用された方みなさんを対象としていますが、生前からお墓に入る希望をお伝えいただいた方に、管理や納骨にかかる費用に充てるため1万円の寄付をお願いしています」という記事を読んだ多くの卒業生が抱樸館福岡を訪れ、寄付の希望をいただきました。なかには卒業してからほとんど抱樸館福岡に足を運んだことのない方もいらっしゃいました。今後は年1回の「偲ぶ会」を抱樸館福岡共同墓地のお墓参りとあわせて開催することを検討しています。

「絆」と銘された墓碑は抱樸館福岡を見守るかのように建っています。私たちのこれからの活動がより充実したものとなるよう心を新たにしました一日でした。



抱樸館熊本がスタートしました ～一人ひとりに寄り添った支援を～

これまで熊本県内のホームレス者・生活困窮者の支援を行ってきた抱樸館熊本準備室が、2018年12月から抱樸館熊本として活動をスタートしました。新施設長の松本剛太郎さんに話を聞きました

——まずは、抱樸館熊本準備室が立ち上がった経緯を教えてください。

「2014年2月に熊本県弁護士会の主催で『貧困・自死に立ち向かう』シンポジウムが開催され、その中で、熊本に抱樸館熊本の設立が必要である、との声が上がりました。その後、2015年4月に抱樸館熊本準備室が立ち上がりました」



「当時の構想としては、20室もしくはそれより若干大きい程度の施設で、抱樸館福岡のような機能（食堂、風呂、談話室、相談室等）を持つ施設にしたいと考えていましたが、新たな場所の問題など様々な事情で思うように進まず、熊本県と熊本市の一時生活支援事業を受託しているマンションの一室をそのまま活用しています」

——抱樸館熊本について詳しくお聞かせください。

「これまで抱樸館熊本ネットワークという構想がありました。熊本市内には、社会福祉法人グリーンコープが運営する刑余者の社会復帰のための施設である自立準備ホーム『リスタート』と、その『リスタート』を卒業された方のうち障がいの関係で単身居宅ができない方のためのグループホーム『リボーン』、そしてホームレス者や生活困窮者を支援する抱樸館熊本準備室があり、この三者で連携してきました」

「これに加え、私たちが行っている3つの事業があり、ひとつは生活困窮者自立支援制度の受託事業である一時生活支援事業（シェルター事業）、二つめに熊本県から指定を受けた居住支援法人による居住支援事業で、これは一時生活支

援事業等を通じて自立して地域生活を送っている方へのアフターフォロー、三つめが昨年12月からスタートした無料低額宿泊事業です。抱樸館熊本ネットワークをベースに、これら3つの事業を総括する主体として抱樸館熊本と呼ぶこととなりました」

——無料低額宿泊事業を始められたそうですね。

「どうしても制度のはぎ間にいる方が地域にいらっしゃるため、そのような方々の地域生活を支援するために昨年12月1日からスタートしました。現在は3名の方が入居しています」

——現在の抱樸館熊本の機能（食堂、風呂、談話室、相談室等）を教えてください。

「一時生活支援事業として熊本県から11室、熊本市から5室受託しています。その他、相談室と事務所と食堂・談話室が1室ずつです。無料低額宿泊所は、居室が4室、食堂・談話室が1室となっています。

いずれも居室は1Kで風呂付きです。近々、無料低額宿泊所の食堂・談話室については、アフターフォローの対象者の方の拠り所としても活用したいと考えています」



食堂・談話室

——熊本市だけではなく、熊本県の事業も行っているのですか。

「熊本市は当然市内が対象ですが、熊本県の場合は広域となりますので、現在は9市31町村の合同事業として受託しています。2016年に起きた熊本地震以降は地震枠のシェルターもあります」

——これまで何人の方に支援されてきましたか。

「2015年度から熊本県一時生活支援事業として111名、熊本市一時生活支援事業として78名の方を支援しています。2015年度の事業開始時には満室となることが多くありました。アフターフォローとしては、現在も継続して約160名の方に支援を行っています」

——熊本県と熊本市でシェルターを利用される方の特徴はありますか。

「熊本市の場合は若い方が多い傾向にあります。地震の後に、熊本市に派遣等で来て、仕事が無くなりネットカフェ生活から繋がった方などがいます。熊本県の場合は広域なので、年齢層、困窮に至った理由等も様々です。熊本県も熊本市も、以前は長期（1年以上）の野宿経験者が多かったのですが、最近はほとんどの方が2、3日の野宿者という方が多いです」

——アフターフォローについて教えてください。

「現在、約160名の方にアプローチしています。年に4回発行する『かわら版』の発行で抱樸館熊本の様子等を伝えています。また、グリーンディングカードの送付や対象者宅への訪問活動を行い、病院同行や役所への同行等を行っています。その他、事務所に来所された方への対応としては、生活相談等を行ったりしています。抱樸館熊本の事務所の上の階も卒業生の方が生活されていますが、その方々にとっては24時間相談できる場所（抱樸館熊本）が身近にあるのは大きな強みと思います」

「その他、卒業生向けのイベントとしては、年に2回の交流会を実施しています。交流会には約30名の卒業生が参加されますので、食事を提供し、それぞれの近況報告を行います。また、夏や冬に向かう前の衣類の提供なども行います」



——抱樸館熊本となって良かったこと、今後の課題を教えてください。

「一時生活支援事業の利用期間は原則3ヶ月とされています。就労可能な方は就職活動を行いますが、シェルター入所から1ヶ月以内に仕事を見つけないと期限内に出られないことが多くあります。また、就労可能ではない方でも適切な社会資源が見つからず、期限ギリギリで何とか社会資源に繋ぐことで対応していました。しかし、無料低額宿泊所を併設した今は、期間が足りない方については無料低額宿泊所に契約を移すことで支援の継続ができるようになった

ことは本当に心強いと思います。」

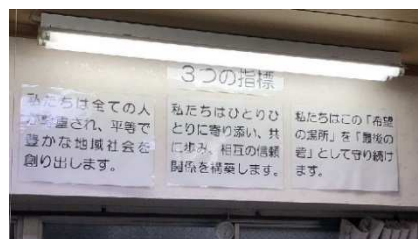
「今後の課題は、アフターフォローと考えています。抱樸館熊本に在る間は、いつでも支援を受けることができますが、退所して自立すると、ひとりで地域生活を送ることになるので、生きづらさを抱えた方々は様々な困難にぶつかります。このときの支援が非常に大切と考えています。現在、アフターフォローの体制は少ないのですが、対象者のお住まいのエリアは広範囲ではありませんし、対象者も約160名と多くはないので、まずは対面活動を行い、地域生活のお手伝いできればと考えています」

——施設長の松本さんにお聞きします。いつからここで支援をされていますか。

「以前は会社員で、ホームレス支援等を意識したことはありませんでした。しかし、自分が仕事を辞めて色々困ったことがあったのがきっかけで、この仕事に携わるようになりました。今は様々な情報や社会資源がありますが、仕事を辞めた当時はインターネットも無く、社会資源等も知らずに困り果てましたが、各行政機関や親族、知人の助けのおかげで乗り越えられました。そのときの経験から、ホームレス者に限らず、生活に困窮されている方のお手伝いをしたくNPOの職員となりました。その後、NPOが解散し、私が携わっていた事業が社会福祉法人グリーンコープに移ったため、社会福祉法人グリーンコープにお世話になりました。」

——これから、やりたいことなどをお聞かせください。

「入所者だけでなく、アフターフォローの対象者についても、ひとりひとりに寄り添い、どの職員が対応しても均一な支援（ケア）ができるようにしたいです。そのためには、抱樸館熊本の職員がチ



ームとなって情報を共有し、話し合い、みんなで支援することが大切と考えています。また、抱樸館福岡や他関連施設等と協働することも必要です。これから精一杯頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

——ありがとうございました。

年末年始、ホームレス支援団体の行事あれこれ（2018～19年）

抱樸館は、各地のホームレス支援団体と連携しながらホームレス者・生活困窮者の自立支援の活動を行なっています。これらの団体が、年末年始に、ホームレス者・自立者に心も体も温まって欲しいと願って、沢山の方の協力を得て様々な取り組みを行なっており、その報告をいただきました。

かごしまホームレス生活者支えあう会より

NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会では、大みそかと元日の正午より地域支援団体やボランティアの方と協働で、越冬炊き出しを実施しました。



教育会館大会議室を借りて、ホームレスの方だけでなく、支えあう会に相談に来られたことのある方にも開催を呼びかけ、年越しそば（大みそか）、お雑煮（元日）を提供しました。

今回も早朝からたくさんの方のボランティアの方が準備に参加され、両日あわせて60名を越える方に温かい料理を提供することができました。

会場が広いので食後もたくさんの方が残って談笑され、寒さを忘れる一時を過ごされていきました。中には、普段はなかなか連絡が取れない方も参加され、近況を伺うことができる等、貴重な交流の場としても、皆さんに認識してもらっているようです。

長崎ホームレスを支援する会より

長崎ホームレスを支援する会は恒例の「年末居宅訪問」を行いました。

12月23日に会員や支援者計14名が出島交流会館へ集まり、午前中にお餅やぜんざい、ラーメン、カレー、味海苔、缶詰、和菓子などの買い出し、午後からこれらを仕分けてパックをつくり、7班に分かれて出発しました。



この日は23名の方々をお訪ねしましたが、普段は顔を合わすことのない方々とも言葉を交わし、近況をお伺いしたりしました。お留守の方からも後ほど「有難うございました」とお礼の言葉がありました。

この「年末居宅訪問」は被支援者と支援者を結ぶ得難い機会の一つとなっています。

また、大晦日とお正月には、「年末年始年越し村」と名付けた取り組みで、路上生活にある方2名をある施設へ受け入れてもらう予定でしたが、施設が満室のため、代わりにホテルの宿泊券を差し上げ、ゆっくりと正月を過ごして頂きました。年の瀬、正月を路上では無く、屋根の下で過ごすことにより、路上からの脱出の気持ちを持っていただく端緒になればと願っていますが、なかなか簡単ではありません。でも、引き続きその努力を重ね、一日も早くそれが実現する様に今後も務めて行きたいと思っております。

美野島めぐみの家（福岡市）では、

2017年は建て替え工事のため、行事ができませんでしたが、クリスマスの会を12月25日（火）に行ないました。

当日は良いお天気に恵まれ、来場者は74名で、第一部は聖書朗読、「聖しこの夜」を全員で歌い、マルセル神父様から話をお聞きしました。



第二部は伝言ゲームで多めに盛り上がり、その後、青春歌謡、そして最後に「ふるさと」を歌い、みんなで楽しみました。

食事は例年どおりすき焼き丼、ほうれん草のごま和え、ゆず大根の漬物、白菜漬け、天ぷらの煮物でした。お土産はカイロ、手袋、お菓子の詰め合わせ、みかん等をお渡しし、皆さん嬉しそうに帰られました。

当日は、ふたば学園の高校生が12人もボランティアに来て下さったので大変助かり、スムーズにいきました。



新年始めの炊き出しは1月8日で、例年のぜんざい、五目ご飯、紅白なます、ほうれん草のごま和え、黒豆、天ぷらの煮物、白菜漬けなど豪華な食事にみなさん「うまかった。家で食べるようなお正月のご飯で、腹わたに染みこんでいくような気がしたよ」と満足そうに言っていました。天気も良かったので来場者も76名になりました。

久留米越冬活動の会より

厳冬期に入る初日は各教会、各寺が得意の食事を用意して突入集会を実施しています。おむすびと保温した味噌汁を路上生活現場に提供していた2002年以前に比べ、定点炊き出しを始めてから支援ボランティアの輪が広がり、市民の目に触れる活動として少しずつ認識されています。



正月8日には恒例の餅つき大会を行いました。食べに来た人々は45名にのぼり、学生、一般の方を含めてボランティアは29名でした。昔取った杵柄と言わんばかりに、ボランティア以外に食べに来た人々も杵を振りあげて、おかげで20kgの餅があつという間につき上がり、きなこや海苔を巻いて食べた上に、帰りには自分の分と居宅する仲間のためにも持ち帰る程、十分に楽しみました。



福岡おにぎりの会より

福岡おにぎりの会では、12月から毎週の炊出し・夜回りが始められます。これらを支えてくださる皆様に感謝いたします。

配られるおにぎりは、おにぎりの機械製作会社と二つの教会がご提供してくださっています。そしてお寺から毎週かしわ弁当を提供していただいています。豚汁はグリーンコープの生産者や持ち込んでくださる方の野菜を使って、新装された美野島司牧センターの厨房でイケメンシェフを中心に昔乙女の皆さんが130食調理してくださっています。

12月21日の夜回りでは年末恒例の新品の肌着上下などを入れたプレゼントを配りました。ボランティアさんがつけてくれた袋のリボンに、びっくりされた方もおられたようです。また、二つの教会からは心のこもったクリスマスのクッキーが添えられました。

1月20日は須崎公園で雑煮大会を実施し、時期は遅れましたが、本格的な「三段お節料理」をお配りしました。



NPO抱樸より

今年も1月3日の追悼集会、新年炊き出しを行うことができました。

250名近い方々が集まり、これまで路上で亡くなられた方々、私たちが家族となり最期を看取り引き受けた方々の追悼を行い献花をしました。

追悼集会では奥田理事長から「この活動を始めて30年経った。当初は一日でも早く解散を、と言いつつNPO法人を設立したが、今は人とのつながりが希薄になり分断される社会になり、この活動を続けていくことが必要となっている。人との

繋がりが希薄になるのであれば私たちが繋がっていこう。お互いの繋がりを大切にし、声を掛け合っていこう。」というメッセージ



がありました。献花の後にみんなで乾杯し、焼肉弁当を食べ、こども越冬隊が用意してくださったぜんざいも頂きました。

恒例となった書初め大会でも、それぞれが思いを込めて筆を動かし、思いのたけを語られていました。路上から脱出されたNさんは、「出会い」と書かれ、「炊き出しでの出会いから人とのつながりを取り戻し、今は落ち着いた生活を取り戻すことができた。いま困っている方が居ればこの出会いやつながりを大切にしたい」と、ご自分の経験をもとに話してくださいました。

恒例のライブも心の温まる楽しい時間を過ごすことができ大盛況でした。

抱樸館福岡より

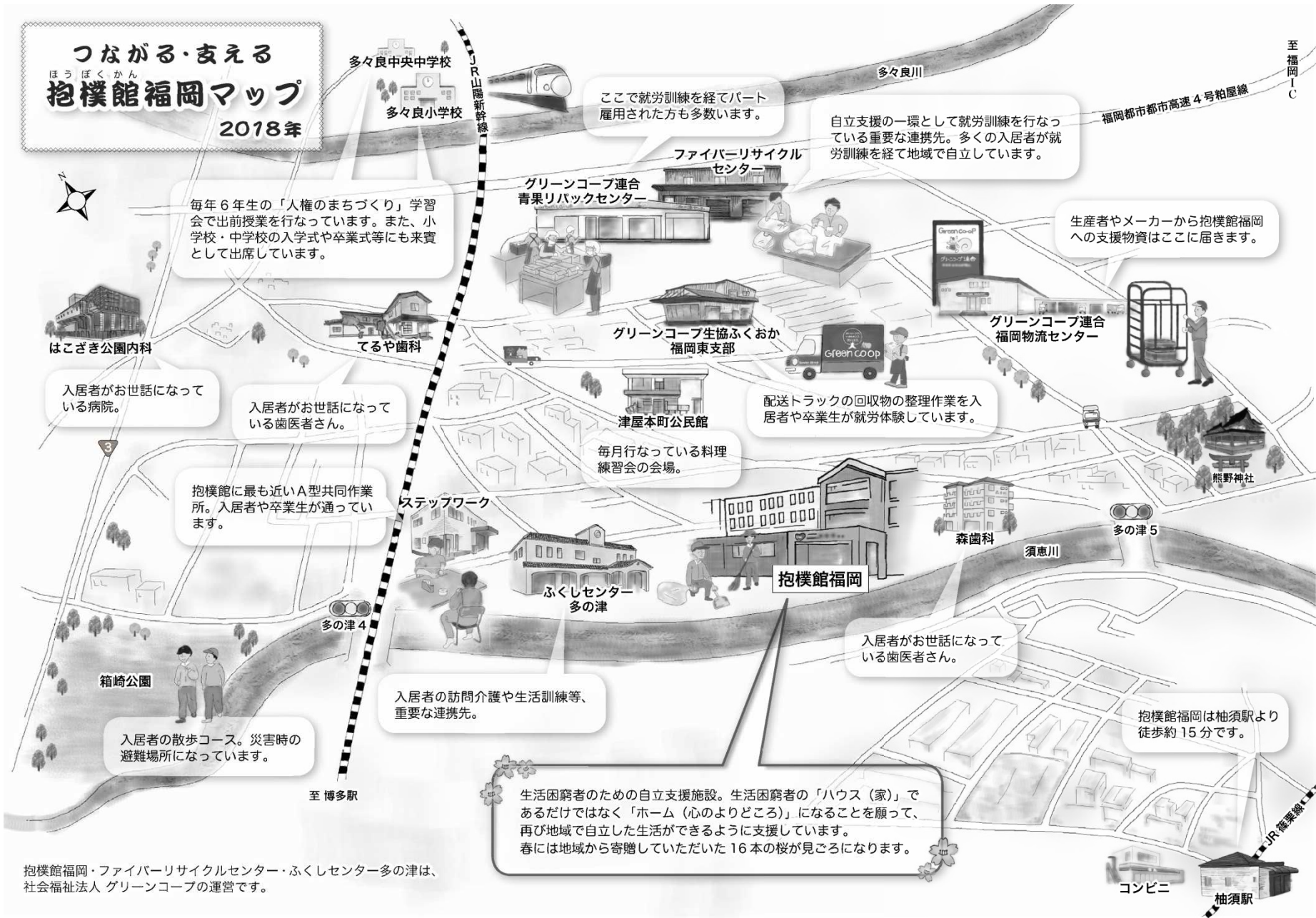
1月2日に書初めを行いました。毎年の恒例行事となりつつあり、「書初めやるの？」と卒業生からも問い合わせがありました。内容は年々バラエティ豊かになっていっており、「断捨離」などの目標を書く方から、「次の年号」の予想、黙々と写経をする方など、抱樸館福岡らしい書初めとなりました。



最初は渋々参加した方も、「筆を持つと童心に戻るね」「もう一枚」「これが最後」と、筆が進みました。

それぞれの自立に向け、毎日せわしなく時間が過ぎていく抱樸館福岡ですが、たまには静かに自分と向き合う時間もいいね、と年始のゆったりとした時間を過ごすことができました。

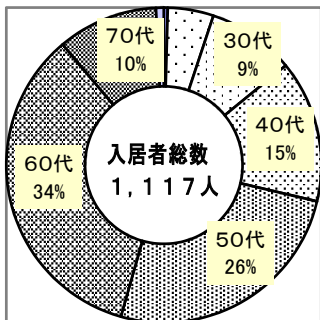
つながる・支える
ほうぼくかん
抱樸館福岡マップ
2018年



抱樸館福岡・ファイバーリサイクルセンター・ふくしセンター多の津は、社会福祉法人 グリーンコープの運営です。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2018年12月末までの入居者数



	人数	割合
10代	5	0.4%
20代	52	4.7%
30代	101	9.0%
40代	163	14.6%
50代	287	25.7%
60代	385	34.5%
70代	115	10.3%
80代	9	0.8%
計	1117	100%

2018年12月末現在の入居者

67名 (定員81名) 男性67名、女性0名

2018年11～12月の新入居者数・退居者数

新入居者数23名 退居者数22名

(注：12月末までの入居者数1117人は、
2度・3度入居した人も1人と数えています。)

抱樸館北九州、抱樸館熊本の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日：抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員：以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協 (14生協)
- グリーンコープ連合
- NPO法人 抱樸 (旧：北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2018年12月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組合員 9146名
- グリーンコープの店舗組合員・一般の方 185名
- 企業賛助会員 105社

その他 (抱樸館の所在地)

- 抱樸館福岡 (福岡市東区) 2010年 5月開所
- 抱樸館北九州 (北九州市八幡東区) 2013年 9月開所
- 抱樸館下関：新たに開設を準備中
- 抱樸館熊本 (熊本市中央区) 2018年12月開所

抱樸館福岡の見学のご案内

- グリーンコープ生協として見学される場合は、所定の用紙でお申してください。
- 個人もしくは知り合いと一緒に

に見学される場合は、直接抱樸館福岡にご連絡ください。
◇出来れば5名以上でお願いします。(ホームページからも見学の申込が出来ます)

なお、1名あたり1000円の見学料をお願いしています。これには昼食代を含んでいます。昼食は入居者が日ごろ食べている食堂で同じものを食べていただきます。

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組合員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- 毎月250円の賛助会費を申し込みいただく (年間で3000円です)
毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。
共同購入申込書の「1300」で申し込みください。
- 101000円の賛助会費を申し込みいただく。何口でも申し込み出来ます。
申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。
共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組合員の場合)

①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

一般の方、グリーンコープの店舗組合員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ

担当 家原 電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11